自宅周辺の街区公園に対する地方都市住民の意識分析

秋田大学工学資源学部　正 員　○鈴木　雄
大仙市道路河川課　正 員　戸嶋　将太
秋田大学工学資源学部　正 員　日野　智
秋田大学工学資源学部　正 員　木村　一裕

1. はじめに

街区公園は、主として街区内に居住する者の利用を目的とする公園であり、誘致距離 250m の範囲で 1 箇所当たり 0.25ha を基準として設置される。住民にとって身近な公園だが、近年、安全や騒音など様々な問題が挙げられている。

しかし、街区公園は地域住民の憩いや交流の拠点となり、快適で個性豊かな地域づくりに貢献しうる施設と考えられる。

本研究は、街区公園の存在価値に着目し、自宅周辺の公園に対する住民の意識を把握したものである。公園への意識のほか、公園愛護団体への参加意向や維持管理に対する価格感度、また非利用者にとっての価値を考察することで、多様化する住民のニーズの中から、望ましい街区公園のあり方を検討する。

2. 調査対象地区と意識調査の概要

本研究では事前の現地調査等から秋田市内の新屋・泉・御所野・山王・広面の 5 地区の街区公園を選定し、近隣住民に意識調査を実施した。いずれの地区においても小学校近隣の街区公園を選定した。

意識調査は 2009（平成 21）年 12 月に直接配布・郵送回収方式で行い、319 票を回収した。調査では自宅周辺の街区公園に対する満足度や利用頻度、メリットや維持管理費用の負担意識などを質問している。

3. 公園の利用とボランティア・清掃活動への参加

公園の利用頻度を**図 1** に示す。全体では、頻繁に利用している被験者は 2 割程度と低く、地区別にみても山王・広面地区は特に利用頻度が低い。また、公園のボランティア・清掃活動などへは、全体でみると、約 4 割の被験者が参加しており、御所野・広面地区の参加率が特に高い。活動への参加意向は全地区で高く、公園に対する関心も高いといえる。

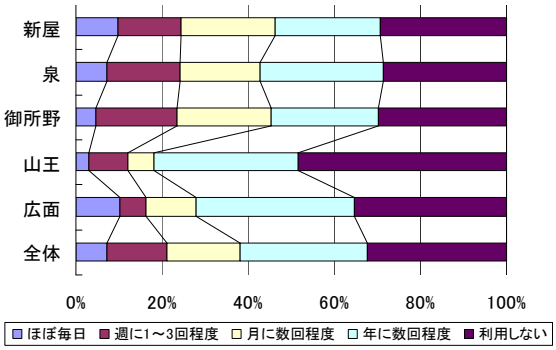

図 1　各調査地区の公園利用頻度

4. 公園の存在価値に対する評価

(1) 数量化理論Ⅱによる分析

意識調査では、公園が自宅付近にあることで利点を感じているかを質問した。被験者の多くが、公園が近くにあることで利点を感じている(**図 2**)。また、公園の各機能についても同様の質問を行った。

本研究では、公園が近くにあることで利点を感じることが、存在価値にあたるという仮定のもとで、各機能との要因分析を数量化理論Ⅱ類によって行った。外的基準を公園の存在による利点の有無、アイテムを公園の機能に対する評価とした。算出したレンジを**表 1** に示す。「子供の遊び場」、「雪捨て場」のレンジが高く、これらの機能に対する評価が公園の存在価値に影響している。

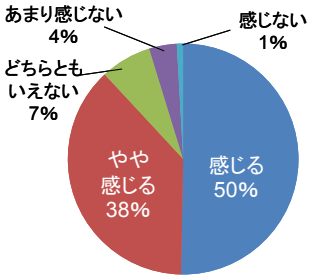

図 2　公園の存在に対する利点の有無

表 1　各機能に対するレンジの値

	レンジ
休憩スペース	0.021
空き地	0.638
景観･自然環境	0.413
交流の場	0.081
避難場所	0.346
子供の遊び場	1.276
雪捨て場	0.821

キーワード ： 地区計画、意識調査分析、街区公園、ロジット型価格感度測定法（KLP）
連　絡　先 ： 〒010-8502　秋田県秋田市手形学園町 1-1　TEL(018)-889-2767　FAX(018)-889-2975

(2) ロジット型価格感度測定法における分析

1) ロジット型価格感度測定法（KLP）の概要[1)]

ロジット型価格感度測定法(KLP)ではある商品に対して「安いと感じる」、「高いと感じる」、「高すぎて買わない」、「安すぎて買わない」という 4 つの価格を消費者に質問する。回答された価格からロジットモデルで回帰した相対累積度曲線を描き、その交点の価格を評価指標とする(**図 3**)。

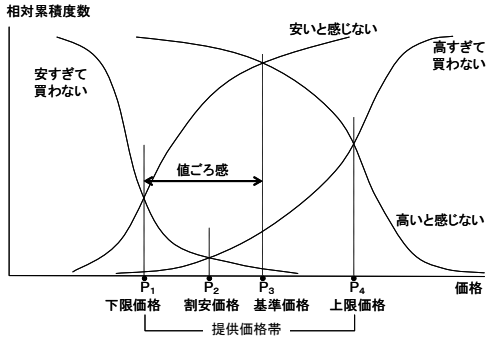

図 3　ロジット型価格感度測定法(KLP)の評価指標

1)P_1(下限価格)：消費者全体に受け入れられる下限。
2)P_4(上限価格)：消費者全体に受け入れられる上限。
3)P_3(基準価格)：高いとも安いとも感じない、バランスがとれていて、値ごろ感の基準となる価格。
4)P_2(割安価格)：品質の割に安いと感じる分岐点。
5)P_1～P_4(受容価格帯)：消費者全体に受け入れられるものであり、事業者が提供すべき価格帯。
6)「値ごろ感」：消費者全体が安いと感じはじめる基準価格より安く、かつ下限価格より上で生じる。

本研究では、町内会費等とは別に 1 世帯が 1 年間に支払うものとし、自宅付近の街区公園における維持管理費用に対する価格感度を質問している。

2) 街区公園の維持管理に対する費用負担意識

街区公園の維持管理費用に対する KLP の評価指標を**表 2** に示す。秋田市の一世帯あたりの公園施設の維持管理予算(約 250 円)と比較すると、どの地区においても費用負担意識は高いといえる。地区別では、泉・御所野地区の上限価格は他の地区より高い。

表 2　公園の維持管理費に対する KLP の評価指標(円)

	下限価格	割安価格	基準価格	上限価格
新屋	407	418	600	702
泉	315	321	629	**1248**
御所野	243	458	739	**1209**
山王	236	314	575	826
広面	270	280	840	1048
全体	278	360	549	1120

3) 利用頻度と住民参加による KLP 評価指標の比較

公園の利用の有無による KLP の評価指標を**表 3** に、清掃活動等への参加の有無による評価指標を**表 4** に示す。上限価格は共に、「利用している」「参加している」被験者が、「利用していない」「参加していない」被験者よりも高い。このことから、公園をよく利用、公園の清掃活動に参加している被験者は公園の維持管理に対する負担意識が高いといえる。

表 3　公園の利用頻度と KLP の評価指標(円)

利用頻度	下限価格	割安価格	基準価格	上限価格
利用している	245	269	594	**1394**
利用していない	279	351	567	**950**

表 4　地区ごとの活動の参加の有無と KLP の評価指標(円)

活動への参加の有無	下限価格	割安価格	基準価格	上限価格
参加している	209	368	746	**1391**
参加していない	239	287	436	**940**

また、公園の利用頻度と清掃活動等への参加の有無の関係をみると、公園を利用していない被験者の中にも、清掃活動等に参加している者がいる(**図 4**)。すなわち、公園を利用していなくても、その存在価値を認め、維持に協力していることも考えられる。

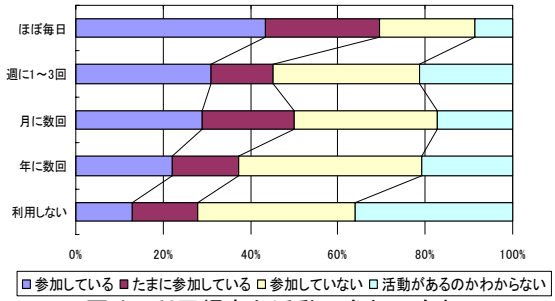

図 4　利用頻度と活動の参加の有無

5. おわりに

本研究による分析の結果、公園を利用している住民だけでなく、利用していない住民においても公園の存在価値を感じていることが明らかになった。また、KLP による分析から、住民が公園の維持管理に対する費用負担意識を有していることも示された。

公園の清掃活動等に参加している住民は公園に対する意識が高い。しかしながら、そのような活動自体を認識していない被験者も少なくない。そのため、活動を周知する取組みや、参加を促す仕組みづくりが必要とされる。

参考文献

1) 岸邦宏・内田賢悦・佐藤馨一：航空運賃に対する利用者の価格感度に関する研究，土木計画学研究・論文集，No.16，pp.187-197，1999.